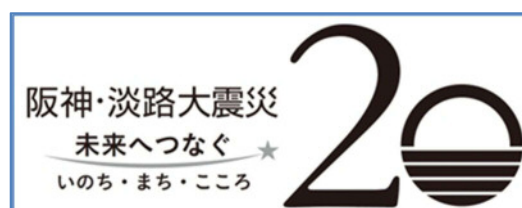


## 防災についての市民アンケート結果報告



芦屋市阪神・淡路大震災 20 周年事業



## 目 次

調査の概要	1
1 阪神・淡路大震災の記憶や経験・教訓の継承について	2
2 災害に対する備えについて	9
3 災害が発生した時の避難について	17
4 市の防災情報や防災対策について	23
5 回答者の属性について	35
6 インターネットやソーシャルネットワークの活用について	40
7 アンケート結果のまとめと今後の課題	43
付録 調査票	47

【報告 3】

## 調査の概要

本市では、震災の記憶や経験・教訓の継承と災害に強いまちづくりを推進するため、阪神・淡路大震災 20 周年事業の一環として、芦屋市に住民登録をされている 20 歳以上の方 3,000 人を対象として、防災についてのアンケート調査を行いました。

アンケート調査の概要	
調査の対象	本市に住民登録をしている 20 歳以上の方のうち無作為に抽出した 3,000 人
実施期間	平成 26 年 10 月 31 日～11 月 21 日
実施方法	郵送（発送・回収とも）
回収票数	1,592 票（回収率 53.1%）

平成 16 年 7 月に行った「芦屋市まち・人・くらし活性化推進アンケート」の回収率は 54.1% でした。本調査でも回収率は 53.1% と、大きな差はありませんでした。

### 本書の読み方について

- 設問に対する回答は、下記の種類があります。
  - ① 選択肢をひとつだけ選んでいただくもの（単一回答：SA）
  - ② 選択肢を指定した個数あるいはあてはまるすべてを選んでいただくもの（複数回答：MA）
  - ③ 文章など自由記入で回答いただくもの（自由回答）があります。
 結果を示す際は、単一回答の集計では構成比（%）を、複数回答の集計では実際の件数を基本としています。
- 単一回答（SA）の集計では、全回答のうち無記入を除いた有効回答数を【N=(数字)】で示しています。  
 なお、複数回答（MA）の場合は【MA】と表記しています。
- 構成比（%）は、一部を除いて整数で表記しています。小数第一位で表記した集計は、四捨五入により合計が 100%にならない場合があります。
- レイアウトの都合上、アンケート調査票に記載された選択肢の文言がすべて表記できていない部分があります。送付に用いた調査票を巻末に記載しておりますので、必要な場合はそちらでご確認ください。

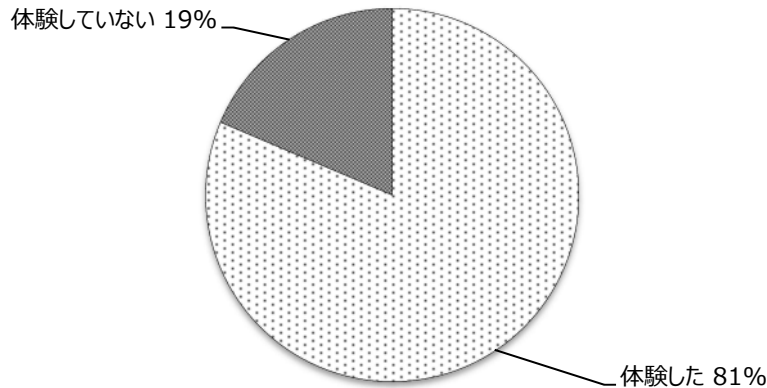
## 1 阪神・淡路大震災の記憶や経験・教訓の継承について

問1 あなたは、阪神・淡路大震災を体験されましたか。(〇は1つ)

震災の記憶や経験・教訓の継承は、これからの大きな課題になっていく可能性があります。今回の調査でも、回答者のおよそ2割が阪神・淡路大震災を「体験していない」と答えています。

平成16年実施の「芦屋市まち・人・暮らし活性化推進アンケート」における震災経験者が86.9%であるのに対して今回は81%となっていますが、芦屋市以外での被災地の体験者も含め、十分に震災を語ることのできる状況と考えられます。

【N=1,579】

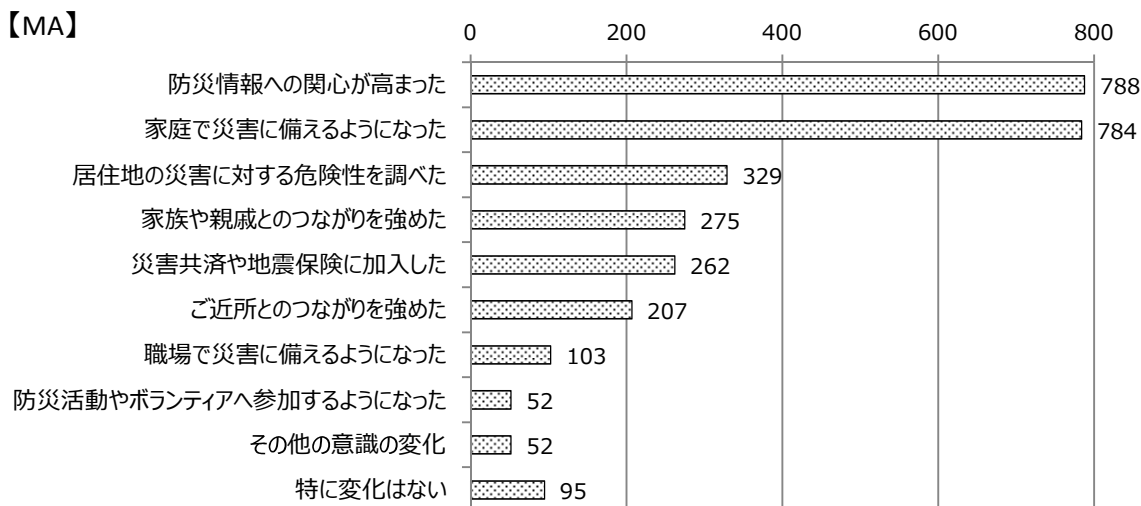


問2 震災を体験した当時、あなたの考え方や行動に変化はありましたか。あれば特に変化があったのはどのような内容ですか。(〇は3つまで)

阪神・淡路大震災を「体験した」と答えた方(1,283人)に当時の意識や行動の変化を3つまで挙げていただいたところ、特に多くの方が「防災情報への関心が高まった」、「家庭で災害に備えるようになった」の2つを選ばれています。一方で、「特に変化はない」との回答も95件ありました。

「芦屋市まち・人・暮らし活性化推進アンケート」では単一回答でしたので、複数回答の本調査と単純な比較はできませんが、前回「となり近所などの他人との結びつきを大切に思うようになった」が50.1%でしたが、今回の「ご近所とのつながりを強めた」では16.1%となっています。

一方で、前回55%だった「将来に対する備えを十分にすべきと思うようになった」は、今回の「家庭で災害に備えるようになった」が61%、「職場で災害に備えるようになった」が8%、「災害共済や地震保険に加入した」が20.4%など、具体的な行動に結びついているようです。



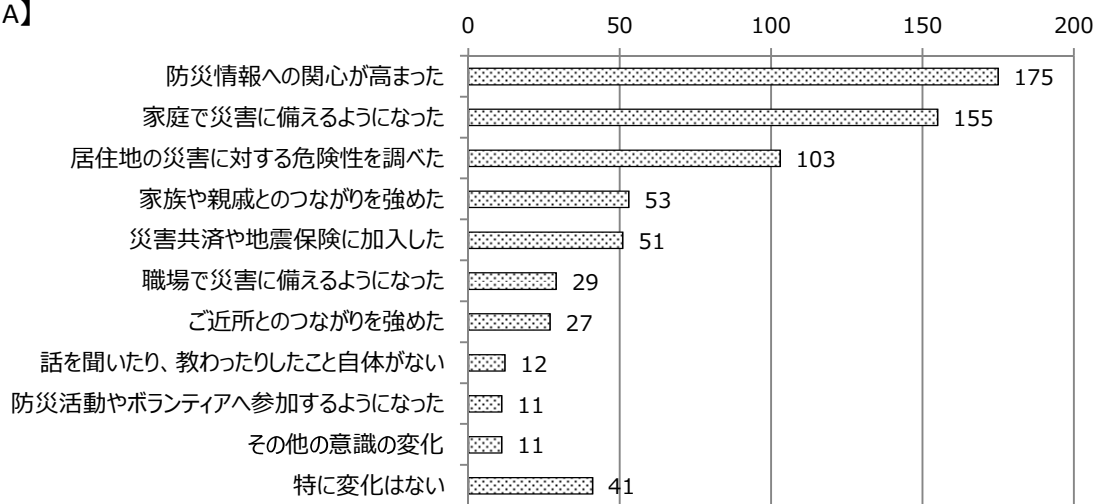
その他の意識の変化 (39 件)	
1.2.4.7 は以前から行っていたが大切な事と声を大にして行うようになった	職場の無理解と冷淡な姿勢を痛感し転職の契機となった 寝室に家具を置かない
1 日 1 日を意識して大切に生きるようになった	人や物への優先順を考えるようになった
1 日 1 日を悔いなく生きるように心がけた	人生観が変わった
1 日を大切に過ごしていこうと思った	他の災害に募金するようになった。仕事や介護があつて防災活動やボランティア参加ができないので
シンプルライフを心がけようと思った	大きな災害の時は消防、あるいは役所は十分に機能しないので自助努力、すべて自分たちで解決する意識が必要
すぐに持ち出せるようにまとめてある	地震シンдрームになり地下鉄に乗れなくなった
また水が出なくなることを想定しお風呂のお湯はすぐに流さず翌朝掃除して流すようにした。	地震に敏感になった
まとまった金額の現金・預金が必要	地震速報を気にする様になった。
安全神話のあった神戸の街で大震災に遭い、どこの土地にも起こる災害の怖さを知った。	津波の影響を考えた
引っ越し先の仮設が火事になったので火の元の安全にとても注意するようになった	背の高い家具不安定な家具を選ばない 被災した場所では生活したくないと思った
家を建て替えた	非常事態に対応できるよう体調を整えて、整理整頓に心がける
行政ウオッチ	普通に生活できるのは当たり前ではないと感じた
国や行政は当てにならない	防災用品を揃えた
国内の災害に関心が強まった。話し合が増えた。	命があれば何とかかなと思った
災害対策が重要と認識したが未実施	命の大切さ、災害に対する危険性とは異なる居住地選びの大切さ
自然災害の怖さについて	明日何が起こるかわからないと思うようになった
社会の注目期間は短い。現実生活へと意識を早く戻すべきであった。	木造でなくしっかりした鉄骨の入った家が安心。水の保存の必要性
車のガソリンをフルにしておく	
車の燃料は常に満タン	
助け合いの大切さをいっそう感じるようになった	

【報告 3】

問 3 家族や友人など周囲にいる阪神・淡路大震災を体験した人から、阪神・淡路大震災の話の聞いたり、自分で調べたりしたことにより、あなたの考え方や行動に変化はありましたか。あれば特に変化があったのはどのような内容ですか。（〇は3つまで）

実際に震災を体験した人と同じく、「防災情報への関心が高まった」と「家庭で災害に備えるようになった」が多くなっています。  
 一方で、「話を聞いたり、教わったりしたこと自体がない」との回答が 12 件、「特に変化はない」との回答は 41 件ありました。

【MA】



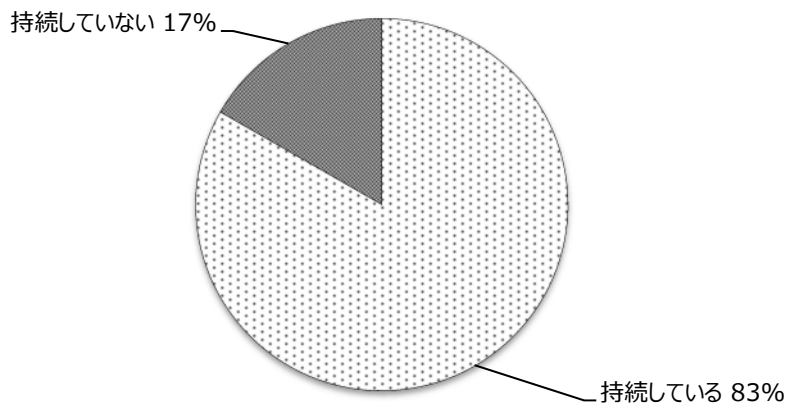
その他の意識の変化（11 件）	
もしここで地震が起きたらどうするか時々考える	
地震が起きた時のとっさの行動を具体的に考えるようになった	
子どもと連絡が取れるように決めた	
家具の配置	
寝室に倒れるものをおかないようになった	
服装や食品備蓄に気を付ける	
震災直後の色々な情報収集の大切さを学んだ	
自然の脅威が自分の身にふりかかることがあると意識した	
恐怖心が強くなった	
老人でよく分からない	
時々、避難する場所の候補について家族で話す	



問4 【問2または問3で変化があったと答えた方のみお答えください】阪神・淡路大震災から20年が経とうとしていますが、問2または問3で答えたあなたの考え方や行動は現在まで持続していますか。

8割以上の方が、阪神・淡路大震災の発生当時に変化した考え方は現在まで「持続している」と回答しています。

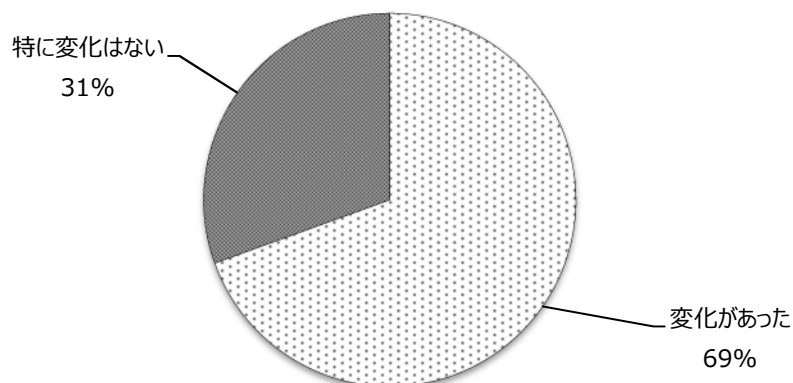
【N=1,388】



問5 阪神・淡路大震災以降の自然災害がきっかけで、あなたの考え方や行動に変化はありましたか。

阪神・淡路大震災から20年を経過する中で、多くの自然災害が発生しました。回答者の約7割が、これらの災害によって意識や行動が変化したと答えています。

【N=1,547】



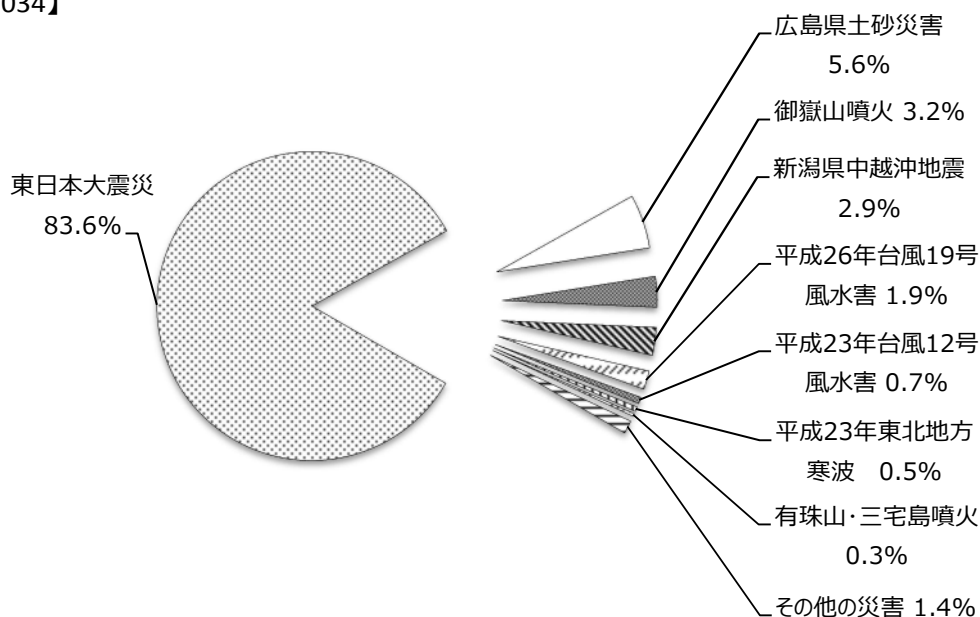
【報告 3】

問 6 【問 5 で「1.変化があった」と答えた方のみお答えください】あなたの考え方や行動に特に変化をもたらすきっかけとなったのはどの災害ですか。（〇は 1 つ）

問 5 で「変化があった」と答えた方を対象に、変化の大きなきっかけとなった災害を挙げてください。8割以上が「東日本大震災」と回答されています。

一方で、台風などによる土砂災害や浸水被害を挙げた人もおり、「その他の災害」の中では丹波市・洲本市の台風被害や神戸市の都賀川水難事故が挙げられるなど、倒壊や火災の被害が大きかった阪神・淡路大震災とは様相が異なる災害も、私たちの考え方や行動に変化をもたらすきっかけとなっていることを示しています。

【N=1,034】

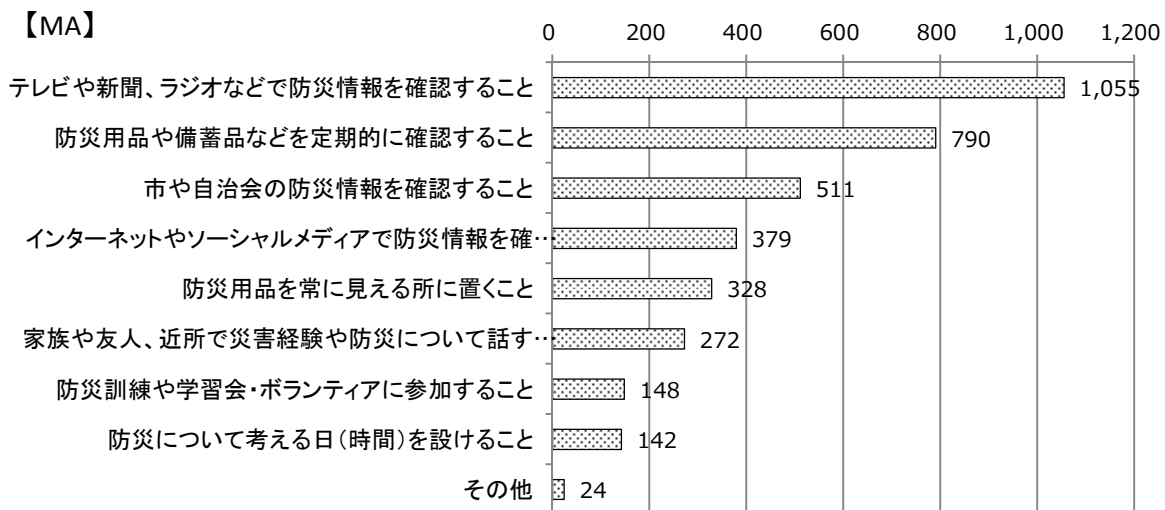


その他の変化をもたらすきっかけとなった災害（13件）	
阪神・淡路大震災（仮設での火災に遭った事、阪神大震災時には被害の少ない地域に住んでいて問題がなかったが芦屋市に住むようになり考えが変わった、等を含む。）	6
2004年の洲本市の災害	1
新燃岳噴火	1
丹波市土砂災害	1
都賀川水難事故	1
大雨あれば	1
ここ数年の震災・水害すべて（全て。最近、災害がひんぱん、を含む）	2

問7 防災意識を高めたり、持続されるために必要と思うことは何ですか。(〇は3つまで)

「テレビや新聞、ラジオなどで防災情報を確認すること」の回答が最も多く、1,000件を超えています。次いで、「防災用品や備蓄品などを定期的に確認すること」が多くなっています。

一方で、「防災訓練や学習会・ボランティアに参加すること」や「防災について考える日(時間)を設けること」は相対的に少なくなっています。

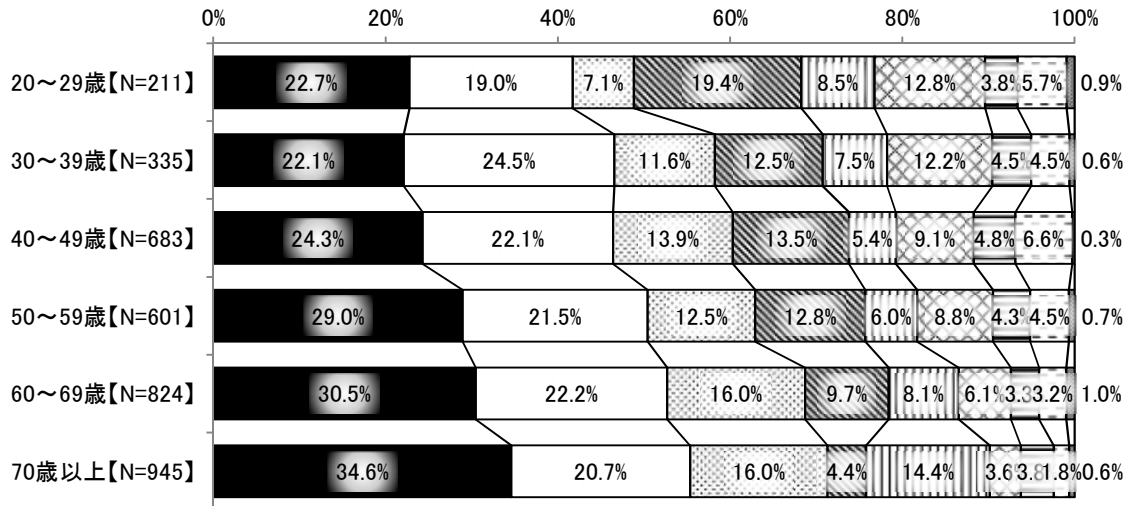


【報告3】

回答者の年代別にみた防災意識を高めたり持続するために必要なこと

回答者の年代別に「防災意識を高めたり、持続されるために必要と思うこと」をみると、「インターネットやソーシャルメディアで防災情報を確認すること」は20歳代で最も多く、逆に「市や自治会の防災情報を確認すること」が最も少なくなっています。

また、「防災用品や備蓄品などを定期的に確認すること」は30歳代で最も多く、「防災用品を常に見えるところに置くこと」は70歳代で最も多くなっています。



- テレビや新聞、ラジオなどで防災情報を確認すること
- 防災用品や備蓄品などを定期的に確認すること
- 市や自治会の防災情報を確認すること
- インターネットやソーシャルメディアで防災情報を確認すること
- 防災用品を常に見えるところに置くこと
- 家族や友人、近所で災害経験や防災について話す機会を増やすこと
- 防災訓練や学習会・ボランティアに参加すること
- 防災について考える日(時間)を設けること
- その他

## 2 災害に対する備えについて

問8 現在あなたが災害に備えて行なっているものに、それぞれ○をつけてください。

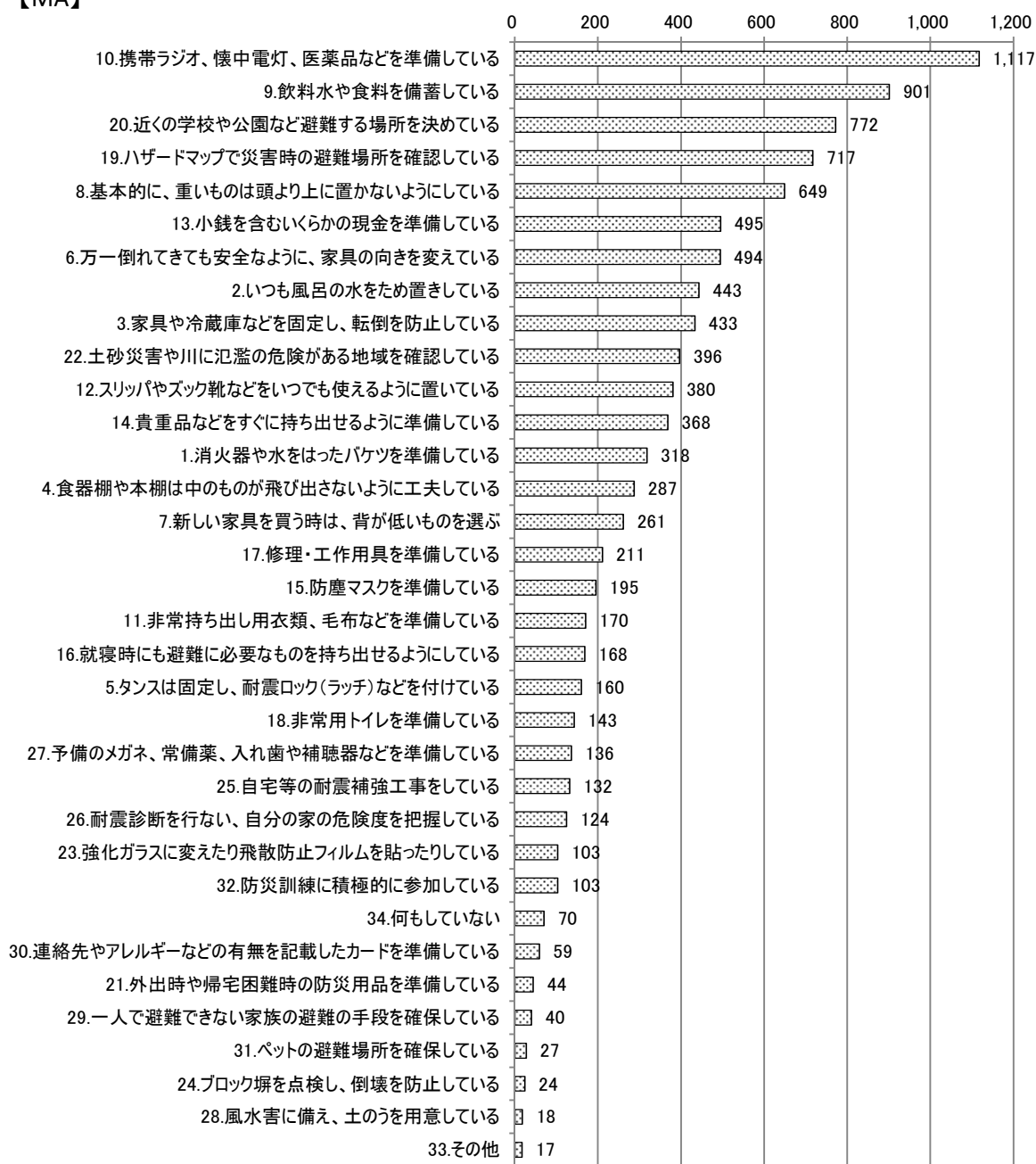
災害に備えて行なっている対策（設問および回答数）	
1. 消火器や水をはったバケツを準備している	318
2. いつも風呂の水をため置きしている	443
3. 家具や冷蔵庫などを固定し、転倒を防止している	433
4. 食器棚や本棚は揺れによって中のものが飛び出さないように工夫している	287
5. タンスは固定し、扉が開いたり引き出しが飛び出さないように耐震ロック(耐震タッチ)などをつけている	160
6. 万一倒れてきても安全なように、家具の向きを変えている	494
7. 新しい家具を買う時は、背が低いものを選ぶ	261
8. 基本的に、重いものは頭より上に置かないようにしている	649
9. 飲料水や食料を備蓄している	901
10. 携帯ラジオ、懐中電灯、医薬品などを準備している	1,117
11. 非常持ち出し用衣類、毛布などを準備している	170
12. スリッパやズック靴などをいつでも使えるように置いている	380
13. 小銭を含むいくらかの現金を準備している	495
14. 貴重品などをすぐに持ち出せるように準備している	368
15. 防塵マスクを準備している	195
16. 就寝時にも、避難に必要なものをすぐに持ち出せるよう準備している	168
17. 修理・工作用具を準備している	211
18. 非常用トイレを準備している	143
19. ハザードマップで災害時の避難場所を確認している	717
20. 近くの学校や公園など避難する場所を決めている	772
21. 外出時や帰宅困難時の防災用品を準備している	44
22. 土砂災害や川に氾濫の危険がある地域を確認している	396
23. 窓ガラスを強化ガラスに替えたり、ガラス類に飛散防止フィルムを貼ったりしている	103
24. ブロック塀を点検し、倒壊を防止している	24
25. 自宅等の耐震補強工事をしている	132
26. 耐震診断を行ない、自分の家の危険度を把握している	124
27. 予備のメガネ、常備薬、入れ歯や補聴器などなければ困るものを準備している	136
28. 風水害に備え、土のうを用意している	18
29. 一人で避難できない家族の避難の手段を確保している	40
30. 家族とはぐれた際に備え、連絡先やアレルギーや病気の有無について記載したカードなどを準備している	59
31. ペットの避難場所を確保している	27
32. 防災訓練に積極的に参加している	103
33. その他	17
34. 何もしていない	70

回答数の多い順にみた備えの状況

災害に備えて行っている対策を回答数の多い順にみると「携帯ラジオ，懐中電灯，医薬品などを準備している（1,117件）」が最も多く、「飲料水や食料を備蓄している（901件）」が続くなど，避難時に必要性が高く調達が困難と予想される物品・医薬品の確保を特に重視する人が多くなっています。

また，「近くの学校や公園など避難する場所を決めている（772件）」，「ハザードマップで災害時の避難場所を確認している（717件）」など，確実に避難するための段取りを重視する人も多いようです。

【MA】



その他の行っている対策（17件）	
寝室に家具を置いていない（タンス部屋に置いている，不要な物を整理し家の中を整理し身軽な生活を心がけている，要らない食器や衣料を庭に置いている，等を含む）	6
職場に帰宅の為に地図を置いている（保育所・学校までの送迎手段を何通りかでシミュレーション，連絡が取れない場合待ち合わせ場所の打ち合わせ，避難所生活にそなえ簡易枕・アイマスク・スリッパを用意している，等を含む）	4
ライトを各部屋に置いている	1
診察券，薬手帳	1
ペット（ねこ）を入れるかごを確保している。	1
地震保険加入	1
自治会などの訓練参加	1
市の防災情報を常に気にしている	1
防災士の資格を取得した	1

【報告 3】

回答者の年代別にみた対策

年代別・項目別に回答数をみると、「6. 万一倒れてきても安全なように、家具の向きを変えている」が40歳代で、「13. 小銭を含むいくらかの現金を準備している」が70歳以上で上位5項目に入っています。

一方、「32. 防災訓練に積極的に参加している」が20～29歳で、「30. 家族とはぐれた際に備え、連絡先やアレルギーや病気の有無について記載したカードなどを準備している」が20～50歳代で下位5項目に入っています。

回答項目	回答数 (網かけは上位 5 項目, 塗り潰しは下位 5 項目)						
	全体	20～ 29 歳	30～ 39 歳	40～ 49 歳	50～ 59 歳	60～ 69 歳	70 歳 以上
1. 消火器や水をはったバケツを準備している	316	6	18	44	62	75	111
2. いつも風呂の水をため置きしている	438	16	26	65	78	102	151
3. 家具や冷蔵庫などを固定し、転倒を防止している	431	21	36	86	76	97	115
4. 食器棚や本棚は揺れによって中のものが飛び出さないように工夫している	282	15	29	45	43	65	85
5. タンスは固定し、扉が開いたり引き出しが飛び出さないように耐震ロック(耐震ラッチ)などをつけている	159	11	7	26	28	37	50
6. 万一倒れてきても安全なように、家具の向きを変えている	485	30	40	110	102	103	100
7. 新しい家具を買う時は、背が低いものを選ぶ	257	13	19	40	51	64	70
8. 基本的に、重いものは頭より上に置かないようにしている	640	31	57	105	112	147	188
9. 飲料水や食料を備蓄している	892	42	79	170	153	207	241
10. 携帯ラジオ、懐中電灯、医薬品などを準備している	1,103	54	81	194	188	268	318
11. 非常持ち出し用衣類、毛布などを準備している	165	6	15	35	24	33	52
12. スリッパやスック靴などをいつでも使えるように置いている	373	13	23	57	59	92	129
13. 小銭を含むいくらかの現金を準備している	490	19	32	75	85	118	161
14. 貴重品などをすぐに持ち出せるように準備している	362	22	32	48	54	86	120
15. 防塵マスクを準備している	188	10	11	36	35	39	57
16. 就寝時にも、避難に必要なものをすぐに持ち出せるよう準備している	164	6	13	29	31	31	54
17. 修理・工作用具を準備している	207	8	18	37	46	50	48
18. 非常用トイレを準備している	142	4	12	34	30	33	29
19. ハザードマップで災害時の避難場所を確認している	709	38	71	143	132	176	149
20. 近くの学校や公園など避難する場所を決めている	762	46	70	159	125	159	203
21. 外出時や帰宅困難時の防災用品を準備している	44	4	5	12	10	6	7
22. 土砂災害や川に氾濫の危険がある地域を確認している	390	20	25	75	87	107	76
23. 窓ガラスを強化ガラスに替えたり、ガラス類に飛散防止フィルムを貼ったりしている	102	4	6	15	25	26	26
24. ブロック塀を点検し、倒壊を防止している	24	1	0	5	8	3	7
25. 自宅等の耐震補強工事をしている	128	13	5	16	26	26	42
26. 耐震診断を行ない、自分の家の危険度を把握している	122	7	5	26	19	26	39
27. 予備のメガネ、常備薬、入れ歯や補聴器などなければ困るものを準備している	132	7	6	20	21	28	50
28. 風水害に備え、土のうを用意している	18	0	1	2	5	5	5
29. 一人で避難できない家族の避難の手段を確保している	40	2	2	8	7	9	12
30. 家族とはぐれた際に備え、連絡先やアレルギーや病気の有無について記載したカードなどを準備している	59	3	3	10	4	15	24
31. ペットの避難場所を確保している	27	3	1	4	6	10	3
32. 防災訓練に積極的に参加している	101	3	10	19	14	23	32

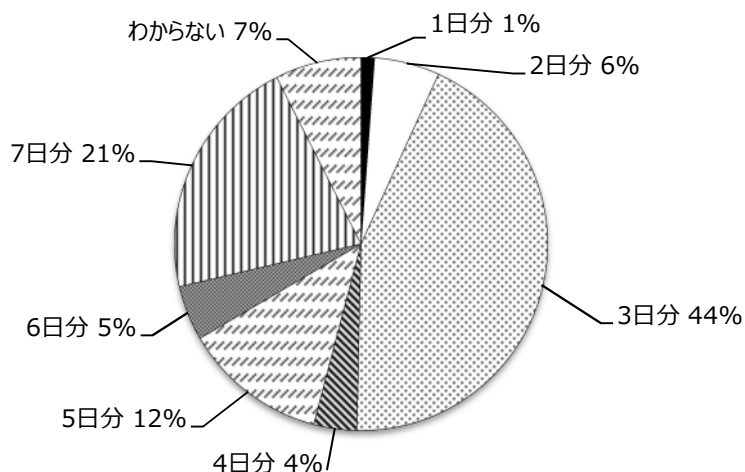


問 9 避難した先に十分な備蓄があるとは限らないため、避難する際には、準備している備蓄を持参することが必要です。ご自宅に、災害用に備蓄する飲料水・食料（調理不要な食品）は、最低何日分が必要だと思いますか。また、実際にご自宅では何日分を備蓄していますか。

避難した先に十分な備蓄があるとは限らないため、避難する際には自らが準備している備蓄を持参することが重要となってきます。  
 必要な備蓄が「3日分」以上と答えた人は回答者の8割を超えていますが、実際に自宅で3日以上を備蓄をしている人は回答者の5割強にとどまっています。  
 また、まったく「備蓄していない」と答えた人も、回答者の2割を超えています。

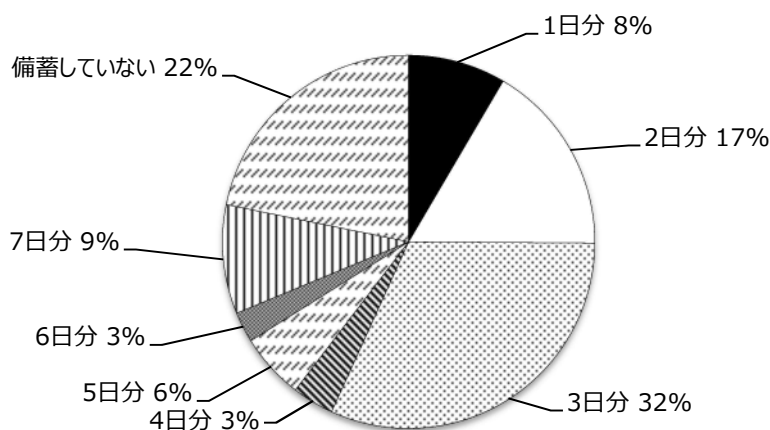
(1) 何日分の備蓄が必要だと思いますか

【N=1,555】



(2) ご自宅では何日分備蓄していますか

【N=1,546】



【報告3】

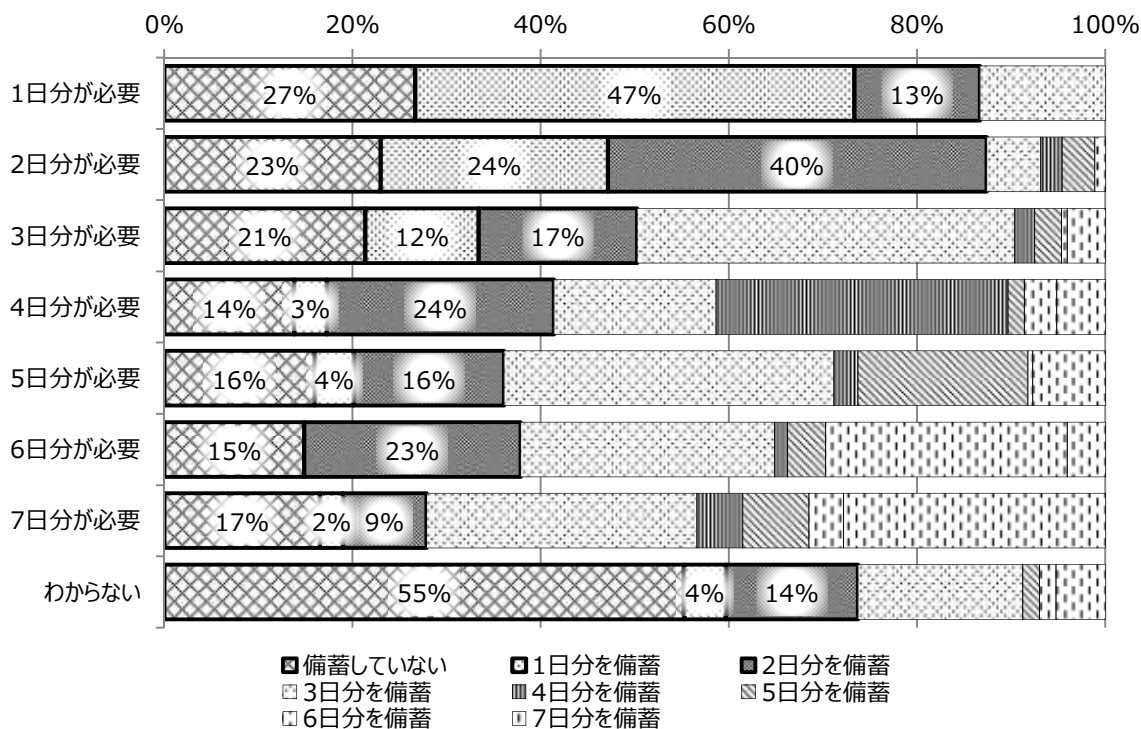
(3) 必要だと思う備蓄の日数別にみた実際に備蓄している日数

5日分以上が必要だと考えていても、実際に備蓄しているのは3日分程度という回答が多くなっています。

また、3日分以上が必要だと考えていても、実際の備蓄は2日分以下という回答が3割から5割程度あります。

必要な備蓄日数が「わからない」と答えた人は、半数以上が備蓄をしていません。

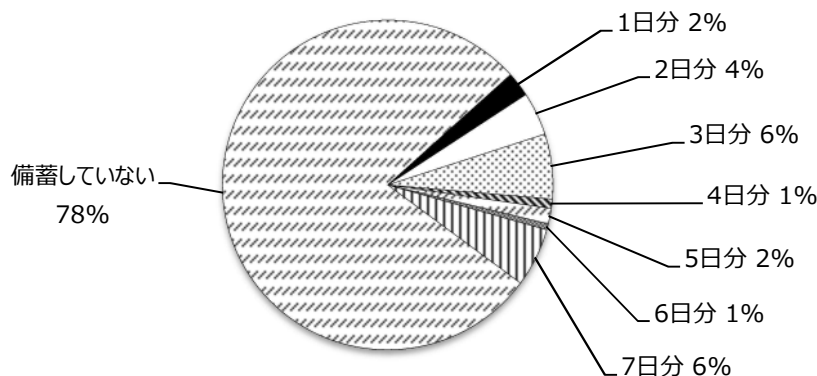
		自宅での実際の備蓄（網かけは最も多い実際の日数）								合計
		備蓄していない	1日分	2日分	3日分	4日分	5日分	6日分	7日分	
必要と考える備蓄	1日分	4	7	2	2	0	0	0	0	15
	2日分	20	21	35	5	2	3	0	1	87
	3日分	142	80	112	267	14	19	4	27	665
	4日分	8	2	14	10	18	1	2	3	58
	5日分	31	8	31	68	5	35	1	15	194
	6日分	11	0	17	20	1	3	19	3	74
	7日分	54	8	29	94	16	23	12	91	327
	わからない	63	5	16	20	0	2	2	6	114
合計		333	131	256	486	56	86	40	146	1,534



問 10 【該当される方のみお答えください】アレルギー疾患のある方や食事療法をされている方のための特別な食料は何日分を備蓄していますか。

回答者のうち 8 割近くが「備蓄していない」と答えています。

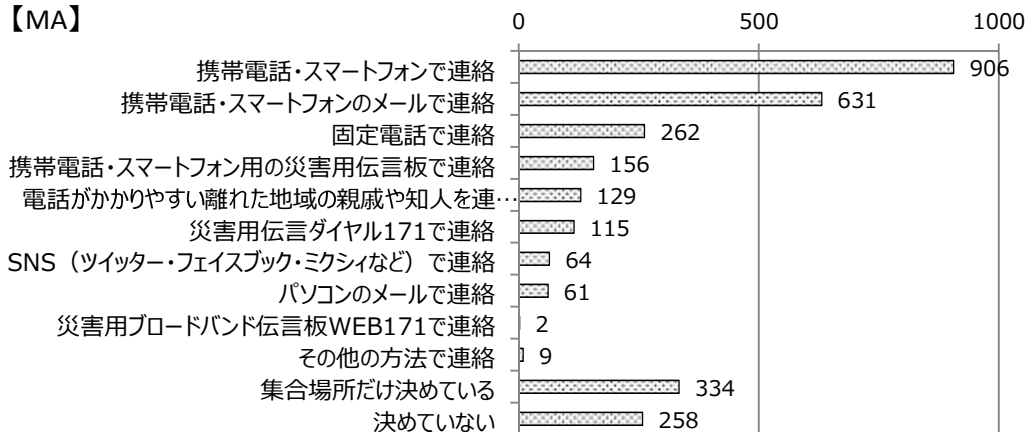
【N=330】



問 11 あなたの世帯では、地震や風水害などの災害が発生した時に家族と一緒にない場合、家族との集合場所や連絡方法をどのように決めていますか？（○はいくつでも）

携帯電話やスマートフォン（通話）で連絡を取ると答えた人が最も多く、次いでメールが多くなっています。  
また、連絡が取れない状況を想定してか、3 番目に多かったのは「集合場所だけ決めている」と答えた人でした。

【MA】



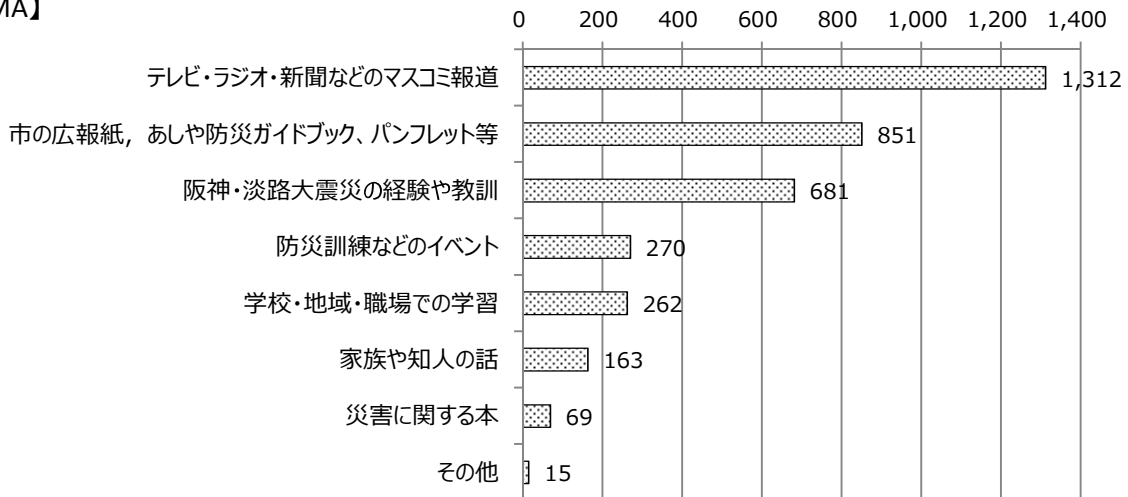
集合場所や連絡方法を定めるその他の方法（5 件）	
LINE	1
他県にいる子ども，親族の電話番号を常に持っている	1
第 1 希望～第 3 希望まで避難場所を決めていて，そこで集合することになっている	1
直接行く	1
民生委員に任せている	1

【報告 3】

問 12 災害への備えをするために何が参考になると思いますか。(〇は3つまで)

「テレビ・ラジオ・新聞などのマスコミ報道」が最も多く、次いで「市の広報紙、あしや防災ガイドブック、パンフレット等」など市の配布物が多くなっています。

【MA】



その他の参考になるもの (9 件)	
インターネット情報 (net, インターネット他からの災害・防災についての情報, メールで災害があったとき知らせてもらっている, 等を含む)	4
各家庭により異なると思うので総合的な情報	1
自治会での注意喚起・問題の共有	1
瞬時に判断し行動すること	1
何も参考にはならない, 自分の経験のみ	1
備えと現実は違うので前から訓練してもあまり役に立たない	1

### 3 災害が発生した時の避難について

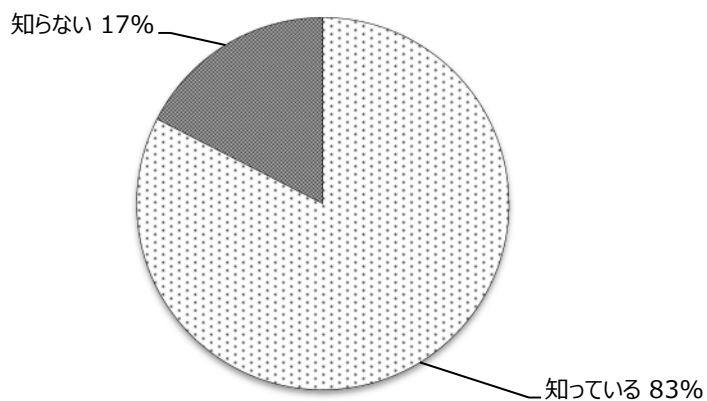
問 13 災害時の避難場所（近隣の避難所，国道 43 号以南の津波一時避難施設（津波避難ビル））がどこにあるかご存知ですか。

災害時には，自分がいる場所付近にある避難所や，津波一時避難施設（津波避難ビル）の位置を把握しておくことが重要です。

近隣の避難場所については，回答者のうち 8 割以上の人「知っている」と答えています。津波発生時に一時的な避難の場所となる津波避難ビルの位置については，6 割以上の人「知らない」と答えています。

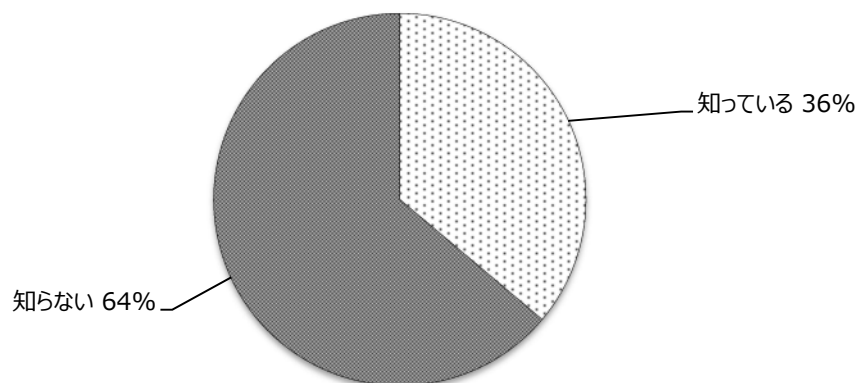
#### (1) 近隣の避難所

【N=1,532】



#### (2) 国道 43 号以南の津波一時避難施設（津波避難ビル）

【N=1,411】

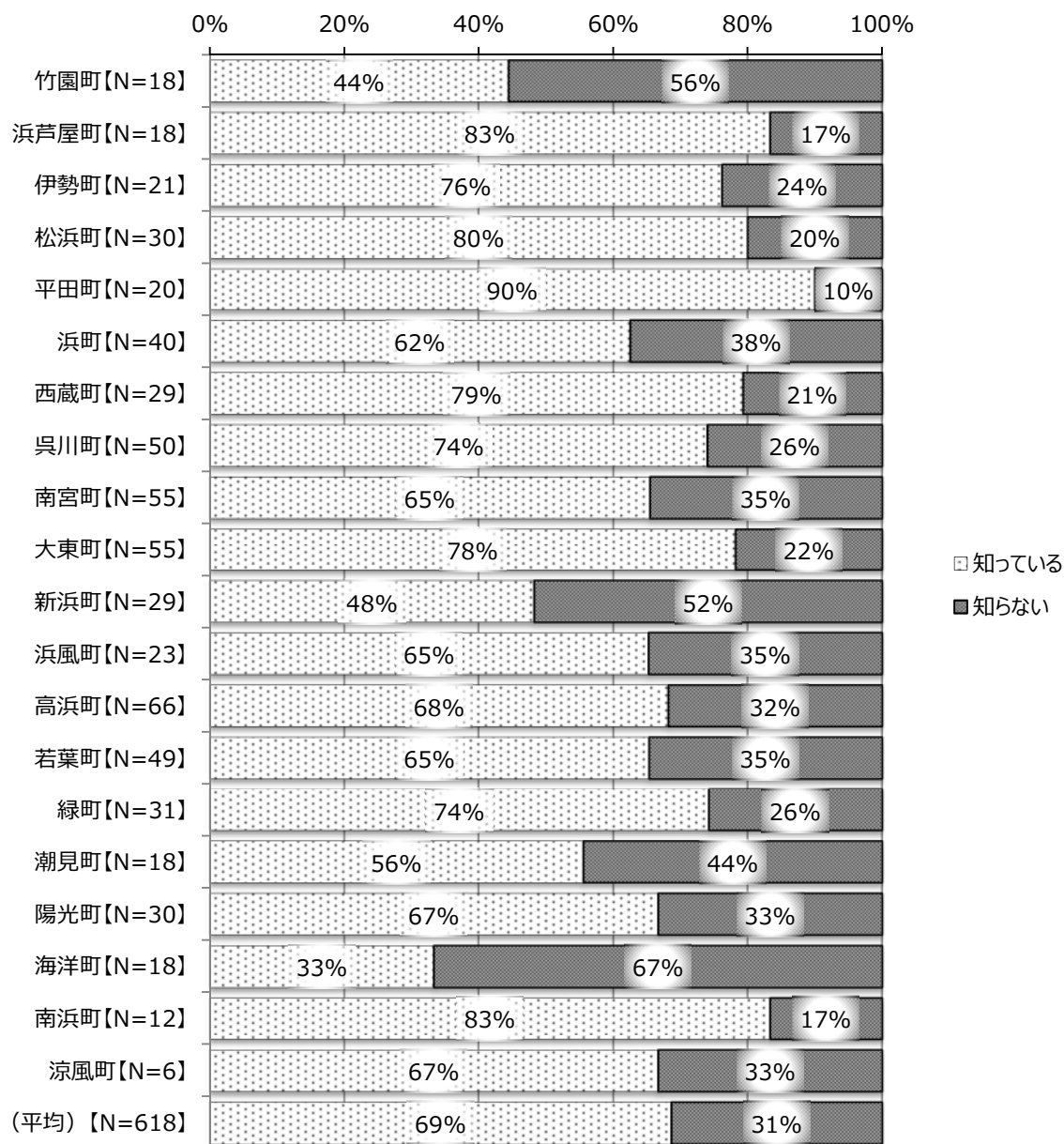


【報告 3】

国道 43 号以南の町別に見た津波一時避難施設（津波避難ビル）の認知度

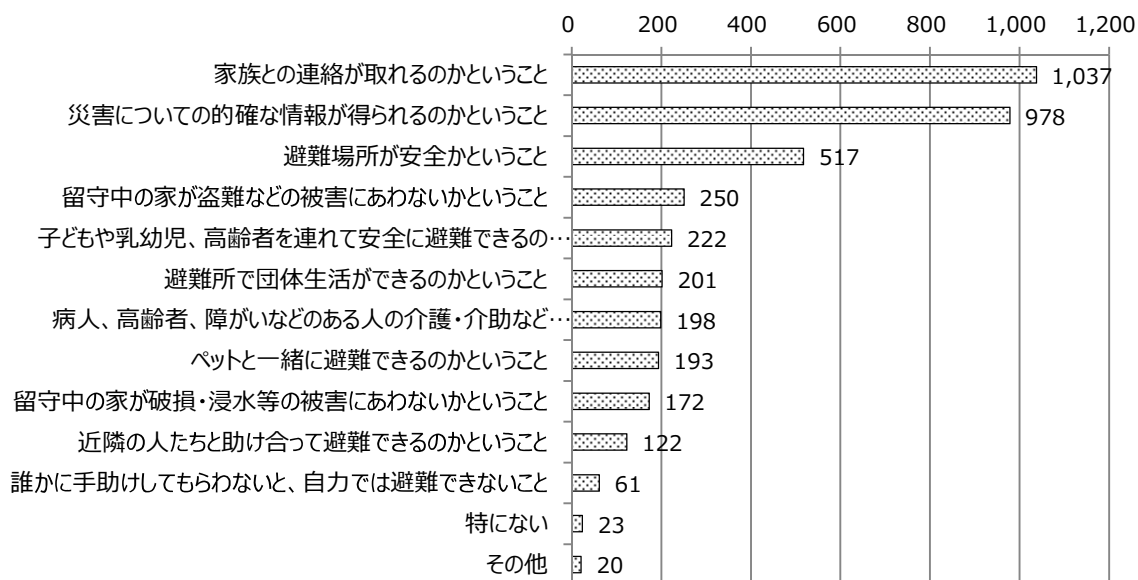
国道 43 以南の町の方に限定して津波一時避難施設（津波避難ビル）の場所の認知度をみると、平均で 69%の人が「知っている」と答えており、回答者全体の 36%を大きく上回っています。

一方で、町別にみた認知度は 33 から 90%までと大きな差があります。



問 14 災害時に避難する場合、あなたが特に心配なことは何ですか。（○は3つまで）

「家族との連絡が取れるのかということ」と「災害についての的確な情報が得られるのかということ」が非常に多くなっています。



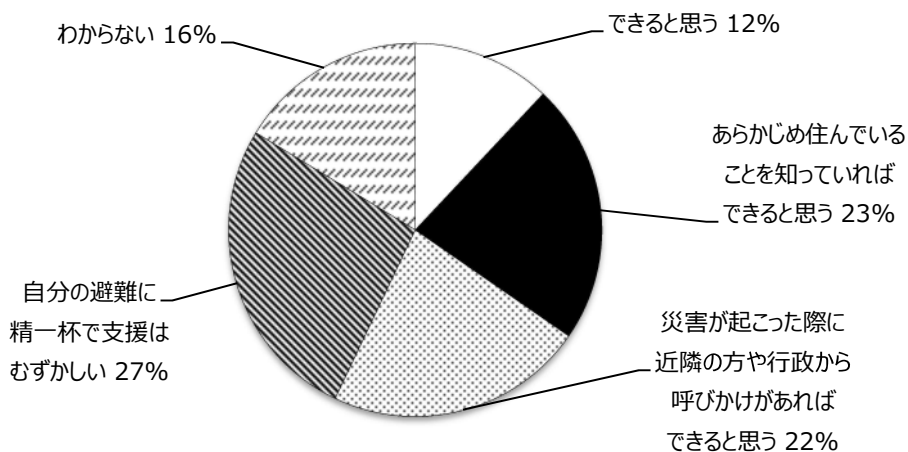
その他の心配なこと（17件）	
避難所の物資の不足（避難しても飲料水・食糧は不十分であるということで支援もいつになるかわからない、避難場所での体、精神面でのケアができるか、行政の対応、等を含む）	4
避難場所が遠くて災害時に歩いていけない。車もない。（家族が高齢のため介助がないと動けないこと、体力がないため何があっても今のマンションにいと決めている、我家は歳以上の高齢者と障害者だけでするので火災以外の災害時は大テーブルの下へ避難することにしています、等を含む）	4
避難経路の安全性（自分も周辺住民も避難訓練と同じ行動がとれるか、避難所の山手小学校に行くまでに災害に会うのではないかと、等を含む）	3
避難時に芦屋を離れていた際、芦屋に戻り家族が集合できるかどうか（子どもが自力で避難できるか、別居しているので自宅の家族のことが心配、等を含む）	3
食糧等の不足（常備薬が無くなった場合の入手方法、避難建物に指定されていれば避難してきた人を家に入れないといけないのか、等を含む）	2
山の近く海が遠く何となく安全な思い	1

【報告 3】

問 15 災害時に避難する必要がある時、あなたは近隣の病人、高齢者、障がいなどのある人などを誘導・支援しながら避難することができますか。 (〇は 1 つ)

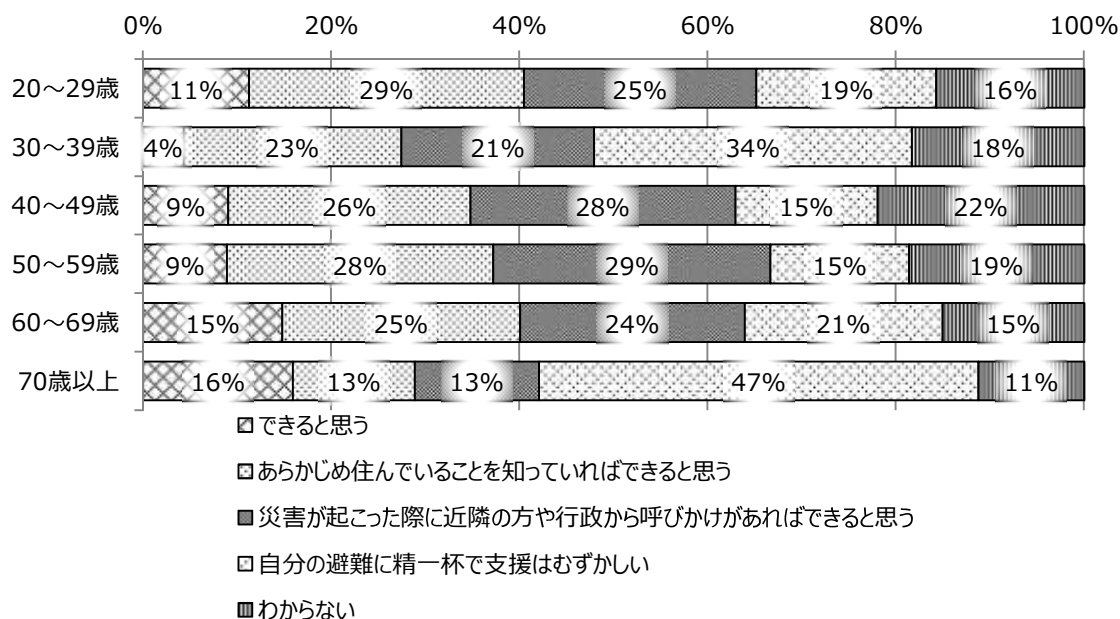
「できると思う」と答えた人は 12%でしたが、「あらかじめ住んでいることを知っていればできると思う」と「災害が起こった際に近隣の方や行政から呼びかけがあればできると思う」を加えると、条件さえ整えば半数以上の方が誘導・支援できると回答しています。

【N=1,565】



回答者の年代別にみた誘導・支援の可能性

「できると思う」、「あらかじめ住んでいることを知っていればできると思う」、「災害が起こった際に近隣の方や行政から呼びかけがあればできると思う」を合計した割合は、30歳代と70歳以上以外の年代で6割を超えています。





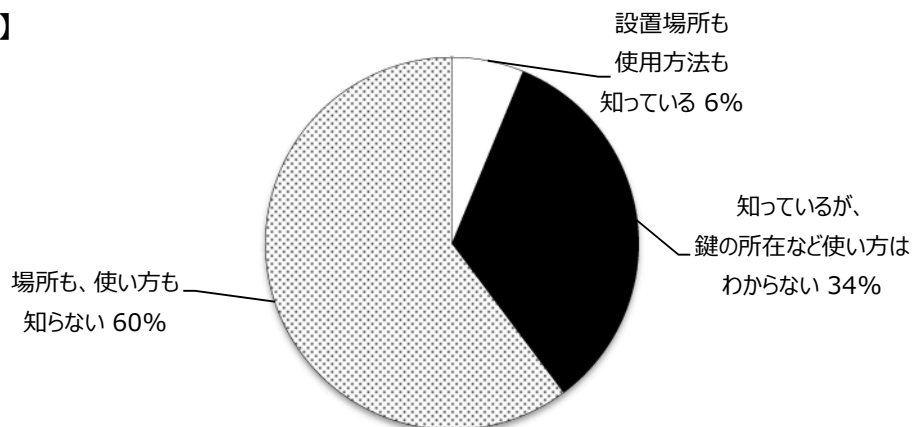
問 16 あなたは、お住まいの地域の防災倉庫や貯水槽（飲料水）などが、どこに設置されているかご存知ですか。（〇は1つ）

市内には、災害の発生に備え、防災倉庫や貯水槽（飲料水）などが地域ごとに設置されていますが、その場所や備え付けの設備の使い方がわからないと、いざという時の役に立ちません。

回答者のうち「設置場所も使用方法も知っている」と答えた人は6%にとどまり、また、施設があることを「知っているが、鍵の所在など使い方はわからない」人は34%でした。

平成16年の「芦屋市まち・人・くらし活性化推進アンケート」では、設置場所も使用方法も知っているのが4.2%、知っているが鍵の所在などの使い方はわからない23.4%であったのに対し、今回はそれぞれ6%・34%となっており、地域や市による啓発活動の効果が出ていると考えられます。

【N=1,562】



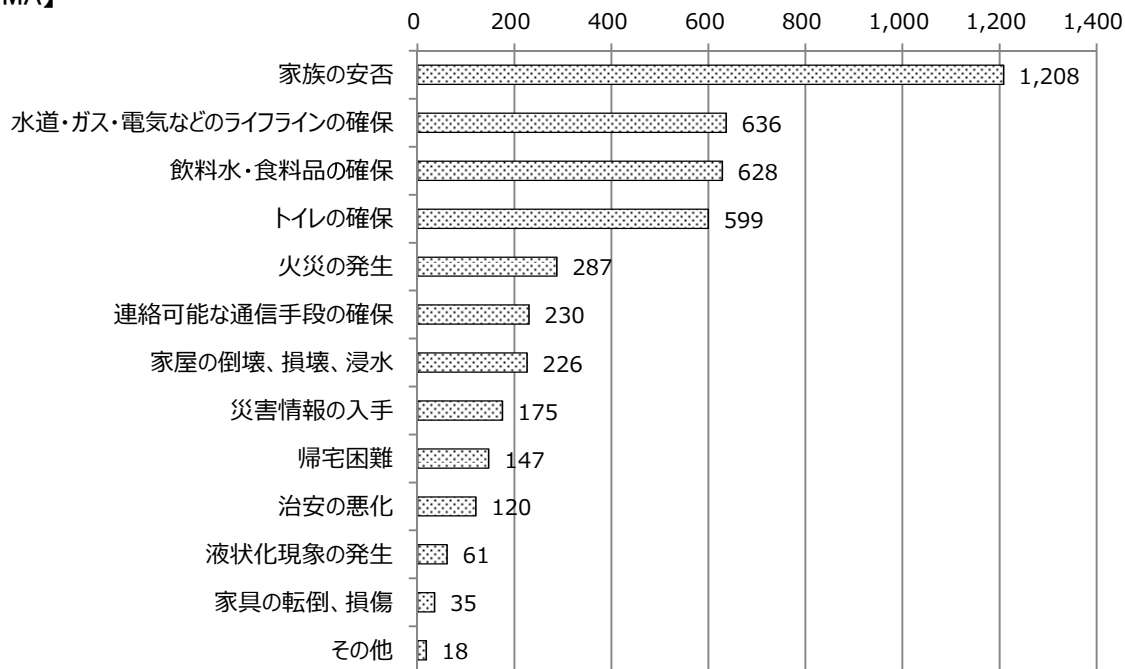
なお、このような施設の場所は、芦屋市が配布している「防災マップ」に記されていますので、ぜひご確認ください。また、鍵の場所や設備の使用方法などについては、お住まいの地区の自主防災組織にお問い合わせください。

【報告 3】

問 17 災害が発生した時に、避難に関すること以外で特に心配をしていることは何ですか。(〇は 3 つまで)

「家族の安否」が突出して多く、次いで「水道・ガス・電気などのライフラインの確保」、「飲料水・食料品の確保」、「トイレの確保」が多くなっています。

【MA】



その他の特に心配していること (17 件)	
他人の世話に関すること (一人で避難できない近隣の老人, 障害者のため何もできない, 医療が必要な場合の事, けが人の治療等専門家に来るまでに出来ることがあったらしたい, 等を含む)	5
ペットの扱い (生活, 安否とペットの居場所の確保, 困り, 等を含む)	4
寝る場所の確保	1
原付など移動手段の確保	1
資金	1
冷静な判断ができるかどうか	1
原発事故	1
津波への対応	1
行政の対応	1
全て	1